

明日の家族を考える会 会報



第5号

2009年10月

・発行 明日の家族を考える会・会長 羽賀絏一 ・事務局長 中村厚子
・発行責任者・編集人 羽賀絏一 ・毎月1回発行
・事務局 〒659-0091 芦屋市東山町10-2-701 中村方 TEL. 080-6165-7011
FAX. 0797-23-2488 URL <http://wnw-ashiya.com>

10月度幹事会

○日時 2009. 10. 22 (木)
19:00~21:30
○場所 中村邸

○出席者確認 (敬称略) 安生、大脇、河村、中村、羽賀、榎本、三木、宮本、安井
山本以上10名

○配布資料 ①会報第4号 ②親子のびやかコンサートの案内チラシ

○報告事項

*事務局報告・中村事務局長

- 1) 平成21年度地域子育て力アップ支援事業に対して助成金申請書を提出した。審査の結果と採択通知があった。助成金額は後日通知となる。
- 2) 親子のびやかコンサート (名称を親子ファーストコンサートより変更) の出演者との打ち合わせを10月9日 (金) に会場のエルホームで行った。河村さん、中村さんが出席し、演奏プログラムを受理した。
- 3) 会報第4号発刊、休会会員と賛助会員に送付する。
- 4) 12月10日 (木) 第2回定例会、ボランティア感謝の集い、懇親会の会場はホテル竹園に決定した。



*河村会計担当 2009年度後期会費を徴収した。

*大脇HP担当 特になし

*河村カルガモクラブ&パンビグループ担当

次の審議事項を参照ください。



○審議事項

1. 第8回公開学習会「動く・こどもの館号がやってくる」について

- ・参加予定者は、カルガモクラブ&パンビグループで約50名となり、ほぼ満杯である。
- ・集合：9：30、会場設営：椅子&机の片付け、座れるスペースに変更する。
- ・準備：参加予定者名簿、ブルーシート、ペットボトル(河村)、垂れ幕、会場案内用張り紙(大脇)、消毒液(宮本)、医師会館へのお礼のお菓子(中村)

2. 親子のびやかコンサートについて(案内チラシ参照)

- ・10：00迄出演者リハーサル
- ・10：00～10：30遊び
- ・10：30～11：30コンサート
- ・コンサート出演者へのお礼、イベントの保険加入について承認
- ・参加予定会員：河村さん、中村さん 羽賀さん、三木さん
- ・垂れ幕、会場案内チラシの作成(大脇)
- ・今後の広報は、当事業は助成対象であることを明記する。

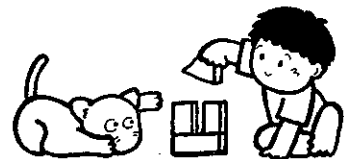


3. 第2回定例会、ボランティア感謝のつどい、親睦会について

- ・日時 2009.12月10日(木) ホテル竹園にて
- ・内容 18：00～18：30 定例会
18：30～20：30 ボランティア感謝の集い&親睦会
- ・会費 10000円、但しボランティア会員は無料

4. 県民交流広場事業「まちの寺子屋」の開設予定

- ・日時 2010年1月22日(金) 2月26日(金)、3月26日(金)
15：30～17：00
- ・対象者 幼稚園児、小学生
次回より幼稚園児を加えて実施する。
- ・会場 前田集会所



5. 第9回公開学習会について

- 芦屋市男女共同参画団体協議会10月例会報告・・羽賀会長
2010年3月に開催される「ウィザス芦屋フェスタ」の準備状況説明
- ・記念講演会講師 候補者16名の中から1～2名に絞って交渉中である。
 - ・フェスタ週間事業は各団体の企画案が多く出てきたので当初1週間としていた期間を2週間とする予定。
- 当会の企画は、「第9回公開学習会」として3月11日(木)午後開催として申し出済みである。

○卓話 講師 山本 眞理子さん

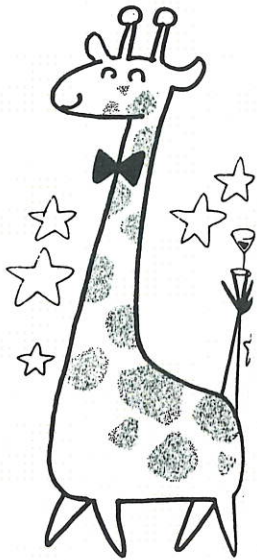
裁判所での調停経験を中心に最近の家族関係の問題点についてお話いただきました。

*金曜バンビ・・・河村さん担当

第1金曜日10:00~11:30 打出集会所

6ヶ月の継続カリキュラムで4月からはじめています。

10月2日(金) 参加ボランティアは、徳田さん、羽賀さん

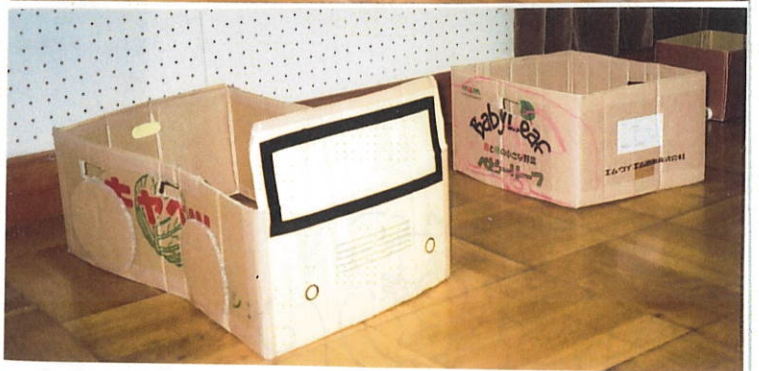


河村さん

徳田さん



絵本



手作りの乗り物、バス、トラック、電車・・・



いろいろなおもちゃ

○10月の子育て支援活動



*カルガモクラブ... 河村さん担当

第2・4木曜日10:00~11:30 西藏集会所

0歳~よちよち歩きまでの親子が対象です。手遊びや育児の悩みを先輩ママがサポートします。子育て仲間をつくって育児を楽しみます。

10月8日(木)、台風18号が日本列島を縦断、明け方まで暴風、大雨で警報が出ていました。その後台風は過ぎりましたが、参加される方はいないのではと思いま

したが、天候も回復して、**2組の親子** が参加されました。

参加ボランティアは、田和さん、辻原さん

22日(木)は、**14組の親子** が参加されました。

参加ボランティアは、徳田さん



*バンビグループ・・・河村さん担当

第2・4火曜日10:00~11:30 打出集会所

1歳~3歳の親子が対象

10月13日(火) 13組の親子 が参加されました。

参加ボランティアは、曾我部さん、辻原さん、徳田さん、羽賀さん

27日(火) 21組の親子 が参加されました。

参加ボランティアは、徳田さん



河村さん



平成 21年度地域子育てケアアップ支援事業

第8回公開学習会

動く・こどもの館号がやってくる!!

兵庫県立こどもの館は、平成元年7月に幼児教育センターを内部組織に持つ大型児童館として世界的な建築家 安藤忠雄氏の設計により、風光明媚な姫路市の桜山湖畔に開館しました。乳幼児から小学生、中学生、高校生まで、子どもたちは家族や団体で訪れ、大自然の中で遊んだり、演劇活動や自己表現活動、図書活動を行い自然と人と文化のふれあいの中で豊かな個性や温かい心を育てています。

また、兵庫県内の児童館の中核施設として、子どもたちの健やかな育成に関わる機関や団体の拠点として、幼児教育に携わる指導者や親たちが相談や学習に訪れ、子育てに関する研修会や調査、研究を行う「場」としての機能を持ち、親子が共に成長するための事業が展開されています。

「動く・こどもの館号」は、県内各地に開設された「まちの子育てひろば」へ体験活動指導員を派遣して子育て中の親子に、歌や手遊び、ゲーム、絵本の読み聞かせ、人形劇、紙芝居等のワークショップを開催して、様々な体験活動の実践指導を行っています。

10月24日(土) 芦屋市医師会館にて10:30~11:30当会カルガモクラブ、バンビグループ、そして一般市民の親子約50組が参加、土曜日の休日であったことからお父さんやおじいちゃん、おばあちゃんの参加もありました。兵庫県立こどもの館から「動く・こどもの館号」のクルマでやってきた体験指導員4名のお姉さん達と一緒にわらべ歌を歌ったり、手遊びをしたり、身体を動かしたりして参加者も当会会員も楽しいひとときを過ごしました。

当会会員の参加：安生さん、大脇さん、上田さん、河村さん、曾我部さん、辻原さん、徳田さん、中村さん、羽賀さん、槇本さん、宮本さん 以上11名。

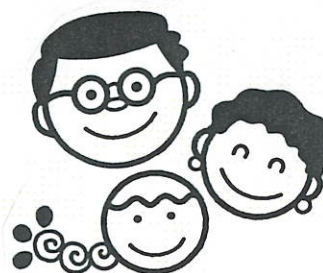




受付



来場者のベビーカー



ベビー衣服・ほしい方に自由に持って帰ってもらいました。

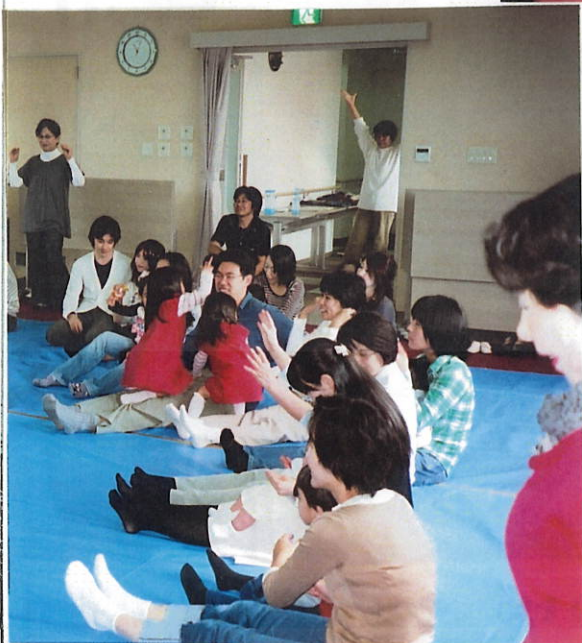


→
開会の挨拶 羽賀会長

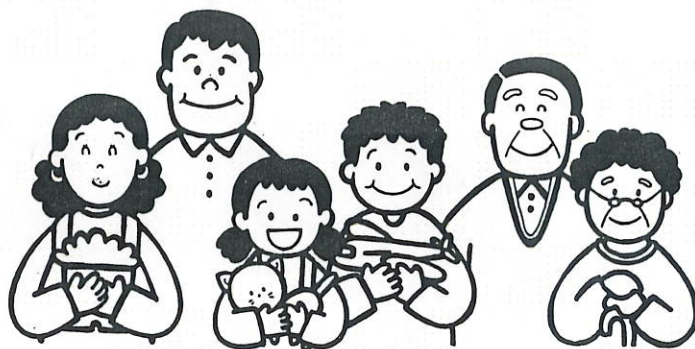


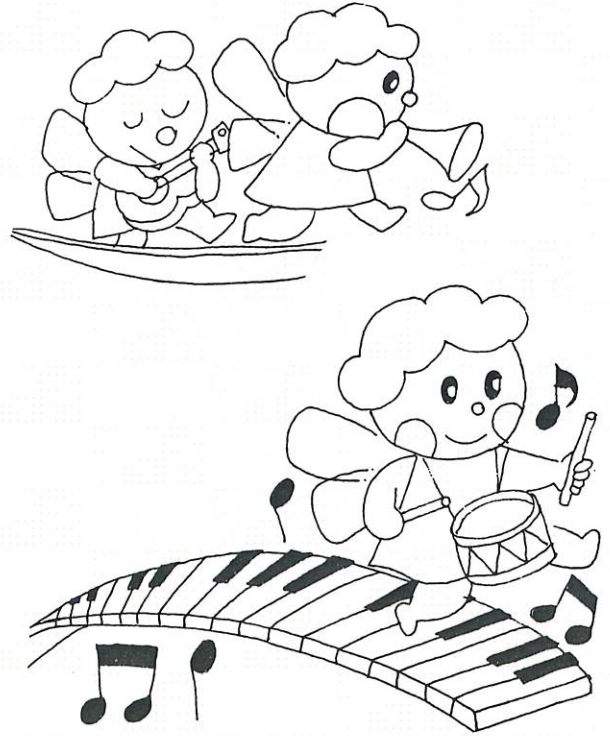
「動く・こどもの館号」でやってきた4人の体験指導員



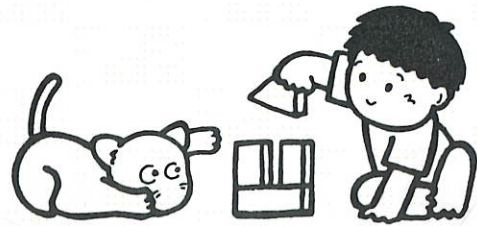


みんなで音楽に合わせて歩いたり、
止まったり、にぎやかでした。





持参したキーボードで演奏する体験指導員



会場全体の様子です。会場には持参したブルーシートを敷いてその上で遊びました。



土曜日の休日だったのでお父さんの参加もあり、みなさん楽しんでおられました。



○会員卓話

テーマ「母親のもつ子育て不安」

＝個人的な問題は社会的問題＝

話し手 山本 眞理子さん



「トイレに一人でゆっくり入りたい」「単語ばかりの会話ではなく大人とまともな話がしたい」、子ども達が乳幼児期の私の願いでした。昭和50年代、東京での仕事を辞め、関西での生活は子育ての仲間がなく、孤独な育児の毎日でした。

また、学齢期の息子4人の世話に明け暮れた日々、昭和60年代には、「子どもの成績がよければ良い母親?」「母親としてだけ私は生きていくの?」という疑問に押しつぶされそうでした。阪神間は教育熱心な私立志向の地域で、子ども達が通学した小学校は通塾率8割を越え、塾に行かない子を「未熟児」と呼んでいました。



私は子育てに不安を持ち続け、「肝っ玉母ちゃん」になれないのは私に問題があるのではと考えていました。仕事では効率的に成果をあげれば評価されますが、子育てに評価はありません。子どもに成果を求め、効率的に達成されたとしても、それが母親の評価になりません。子育てとは非効率的なもので、結果ではなくプロセスだからです。

次男の大学受験を控え、たまたま大学入試案内に社会人入学制度を見つけ、入試に挑戦しました。入学したのは教育学部を改めた人間発達科学部。人間は生涯発達し続ける、その学びを考えていくという学部です。「お母さんも大学1年生」とは息子の、「妻は女子大生」とは夫の当時の言葉です。専攻したのは成人学習論コース、女性の教育です。

そこでそれまでの悩み「子育て不安」を卒論、修論のテーマにしました。学んでいくと、昭和40年代には母性喪失の研究、医学領域からのマタニティブルーの研究があり、その後、虐待、育児ノイローゼ、育児疲労の研究が出てきます。病気や異常ではない、普通の母親が持つ子育ての悩みの研究が出てきたのは昭和60年以降のことです。しかしその頃、子どもの異常はすべて母親のせいとする「母原病」もあり、母親の不安を発言出来ぬ時代でした。

平成6年のエンゼルプラン以降、少子化のために子育て支援を社会全体が考えるようになり、最近では普通の母親の子育て不安が社会的にも認められつつあります。私が持ち続けた不安は専業主婦の孤立した育児、母親としてだけではなく生きたいという自己実現への欲求ともいえます。調査をすると子育てに不安を持つ母親は多く存在し、専業主婦だけでなく、仕事を持つ母親にもありました。「子どもが初めて言った言葉も、初めて歩いたのも保育園の先生から聞いた。母親失格ね」と悩み、父子家庭の父親は「一生懸命に子育てしたつもりでも、思春期の女の子の気持ちはわからない」と悩んでいました。子育てサークルの中では、子どもの成長が、母親の競争になり悩んでいる母親もいました。

子育て不安は児童学、心理学、女性学など多方面からなされています。私は女性教育学



のゼミで教授が言われた「個人的な問題は社会的問題」という言葉が深く心に残っています。私だけの、個人的な問題だと思っていた「母親のもつ子育て不安」は、多くの母親、多くの家庭、そして日本社会全体の問題でもあります。

子どもを育てること、母親としての体験は私の貴重な財産だと還暦になった今ではそう思います。子育てに一方では喜びや楽しさを感じ、一方では悩みや不安をもつ、それは多くの母親が体験することです。「明日の家族を考える会」では、「カルガモクラブやバンビグループ、まちの寺子屋の活動で、また子育て相談等で子育て支援をしています。私は、「明日の家族を考える会」のメンバーであることをとても嬉しく思っています。

<今後の予定>



○親子のびやかコンサート

- ◇日 時 2009. 11月10日(火) 10:00~11:30
- ◇場 所 かねでんエルホーム地域交流スペース(浜町12-3)
- ◇会 費 無料
- ◇出 演 田中 郷子:ソプラノ 山田 律子:フルート 橋田 波子:ピアノ

○カルガモクラブ

- ◇日 時 2009. 11月12日(木) 10:00~11:30
- 11月26日(木) 10:00~11:30
- ◇場 所 西藏集会所



○バンビグループ

- ◇日 時 2009. 11月24日(火) 10:00~11:30
- ◇場 所 かねでんエルホーム

○第2回定例会・ボランティア感謝のつどい 懇親会

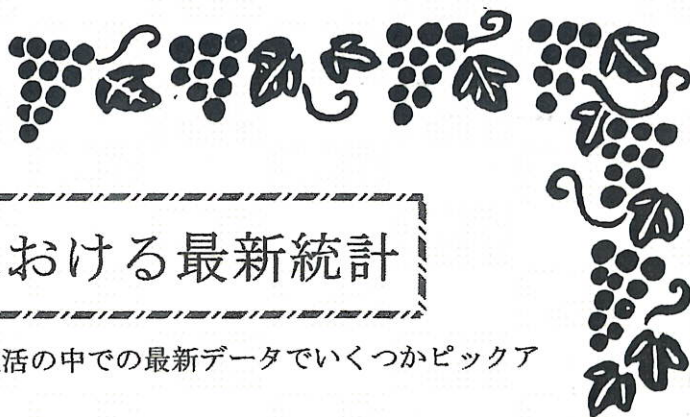
- ◇日 時 2009. 12月10日(木)
- 18:00~18:30 第2回定例会
- 18:30~20:30 ボランティア感謝のつどい・懇親会
- ◇場 所 ホテル竹園

○まちの寺子屋

- ◇日 時 2010. 1月22日(金) 15:30~17:00
- 2月26日(金) 15:30~17:00
- 3月26日(金) 15:30~17:00
- ◇場 所 前田集会所
- ◇対 象 幼稚園児、小学生



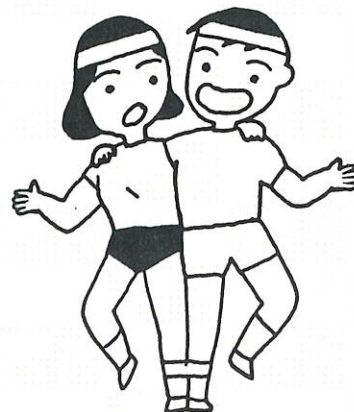
=知っておきたい知識=



男女共同参画社会における最新統計

男性と女性の意識や考え方の違い、職場や生活の中での最新データでいくつかピックアップしてみましたので現状を知ってください。

- ◇家庭生活において男性の方が優遇されていると感じる・・・女性 55.9% 男性 39.0%
- ◇職場において男性の方が優遇されていると感じる・・・女性 64.1% 男性 57.1%
- ◇社会全体における男女の地位は平等だと感じる・・・20.9%
- ◇子どもなし共働き夫婦の家事時間・・・夫25分 妻3時間3分
- ◇共働き夫婦の育児時間・・・夫43分 妻2時間49分
- ◇子どもが出来ても、ずっと仕事を続けるのが良い・・・43.4%
- ◇育児休業取得率・・・女性 89.7% 男性 1.56%
- ◇部長相当職の女性管理職を有する企業・・・8.8%
- ◇普段の生活の中に経済的なゆとりを感じる・・・22.3%
- ◇仕事優先の生活になっている・・・48.6%
- ◇デートDVの被害経験のある大学生・高校生・・・34.9%
- ◇配偶者から身体的・精神的・性的な暴力の重複被害にあった女性・・・41.8%
- ◇配偶者に介護してもらいたい・・・男性 57.6% 女性 18.9%
- ◇結婚はしたほうが良い・・・日本 53.9% フランス 32.7%
- ◇世界経済フォーラム・GGI (ジェンダーギャップ指数) 134カ国中 **75位**



注) 前年の男女格差は、130カ国中98位であったので23ランク上がり、大幅に改善されたと言えるが、先進国の中ではまだ最低である。



編集後記

現在、私たちの住む地球上には、67億余りの人々が生活している。しかし、自分の人生において巡り会える人は、実はごく一握りに過ぎないと言えるでしょう。ご縁があって諸活動を通じて巡り会った人達は単なる偶然ではないでしょう。そしてご縁を大切にすることで素晴らしい人と知り合うことが出来る。そしてそうした人には、必ずまた素晴らしい人がその背後に存在している。つまり、1人の人との出会いがその人の人脈を通して自分の世界が広がっていく。出会いを大切に、良い人と交流し、良いご縁を発展させて充実した日々を送りましょう。

(羽賀)